

# 令和2年度病害虫発生予察 特殊報第1号

令和2年7月9日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

1 害虫名 モトジロアザミウマ *Echinothrips americanus* Morgan

2 発生作物 シソ（オオバ）

3 発生経過

令和元年10月3日に大分市のシソほ場において、アザミウマ類による食害が確認され、門司植物防疫所に同定を依頼した結果、県内未発生のもトジロアザミウマと同定された。本県での本虫の発生確認は初である。

4 県内の発生状況

- 1) 初確認年月日：令和元年10月3日
- 2) 発生確認地域：大分県中部（大分市）
- 3) 発生確認面積：20a

5 発生生態と被害状況

(1) 形態

成虫は体色が暗褐色で、前翅の基部及び中央が灰白色、頭部と胸部の節間が赤みを帯びている。体長は雌成虫が約1.3mm、雄成虫が約1.2mmである（写真1）。

幼虫は黄白色でやや細長く、体全体が刺毛に覆われている。蛹は胸部から腹部にかけてやや膨らんでおり、体色は白く、体全体にやや太い刺毛がある。幼虫及び蛹の複眼は赤色である。

卵は長径約0.3mm、短径約0.2mmの乳白色の俵型で、葉脈沿いの葉肉中に産み付けられる。

(2) 生態

本種の寄主範囲は広く、施設野菜のシソ、キュウリ、メロン、ナス、トマト、ピーマン、インゲンマメ、花き類のポインセチア、バラ、ハイビスカスの他、多くの観葉植物等で成幼虫の寄生と加害が確認されている。また、イネ科雑草やキク科雑草、カタバミ（カタバミ科）等施設内下草への寄生も確認されている。本種の成虫及び幼虫は、葉の表裏に生息する。

卵から成虫までの生育期間は、20℃で33.9日、30℃で11.4日とされ、高温下であれば短期間に世代を繰り返す。

(3) 被害状況

主に中・下位葉に寄生し加害する（写真2、3、4）。食害を受けた葉はかすり状になり、激しい場合は落葉する。

## 6 国内での発生状況

本種は、平成 11 年に東京都のインゲンマメで確認されて以降、平成 14 年に愛知県のシソ（オオバ）、平成 15 年に高知県のミョウガ、平成 16 年に鹿児島県のハイビスカス、平成 25 年に香川県のディーフェンバキア及びシンゴニウム、栃木県のハイビスカス、平成 26 年に宮崎県のピーマン、平成 30 年に福島県のポインセチアで発生が確認され、分布域を拡大している。

## 7 防除対策

- (1) 施設開口部に防虫ネットを設置し、成虫の飛来を抑制する。
- (2) 施設内外の除草を行い、寄生を防ぐ。
- (3) 他県での薬剤感受性検定の結果、スピノシン系（スピノエース顆粒水和剤）の薬剤が成虫及び幼虫に効果が高いことが報告されている。

(参考文献)

1. 伊藤 啓司・大野 徹(2003)シソの新害虫モトジロアザミウマ（仮称）. 植物防疫 57:223-225
2. 宮崎県病害虫防除・肥料検査センター(2013)平成 25 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号. モトジロアザミウマ
3. 日高 春美・松浦 明・森下 勝(2015)宮崎県で初確認されたモトジロアザミウマに対する薬剤の殺虫効果およびスワルスキーカブリダニの捕食量. 九州病害虫研究会報 61: 57-61
4. 福島県病害虫防除所(2018)平成 30 年度病害虫発生予察情報特殊報第 3 号. モトジロアザミウマ



写真1 モトジロアザミウマ成虫



写真2 シソ（オオバ）の被害状況



写真3 下葉（表）



写真4 下葉（裏）